

財団法人8020推進財団

平成21年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録

1. 事業名：重度重複障害者の包括支援システムの構築とその効果に関する検討

2. 申請者名：星野 了<sup>1)</sup>、栗家 匡<sup>1)</sup>、山田史学<sup>1)</sup>、西山 潔<sup>1)</sup>、笠原一臣<sup>1)</sup>、湯田 宏<sup>1)</sup>、瀧澤卓也<sup>1)</sup>、  
田中政代<sup>2)</sup>、伊藤 健<sup>2)</sup>、加藤昭和<sup>2)</sup>、池田正一<sup>3)</sup>、関田俊介<sup>4)</sup>

3. 実施組織：神奈川県歯科医師会地域医療委員会<sup>1)</sup> 社会福祉法人和枝福祉会若草<sup>2)</sup> 神奈川歯科大学  
附属横浜クリニック障害者歯科<sup>3)</sup> 鶴見大学歯学部附属病院障害者歯科<sup>4)</sup>

4. 事業の概要：

昨今、口腔ケアに対する概念が整備されるとともに、口腔ケアは肺炎予防や対象者のQOLの向上に有効であることが認知されてきている。しかしながら、要介護高齢者に対する口腔ケアが中心で、重度重複障害者に対する口腔ケアほとんどなされていない。そこで、重度重複障害者通所施設で働くスタッフに口腔ケアに関する教育を行い、歯科衛生士とともに口腔ケアを実践することで障害者の口腔への関心を惹起し、早期に歯科疾患に対処できるようなシステムを構築する。

5. 事業の内容：

神奈川県には、日本全国的にみても数少ない重度重複障害者通所施設が存在し、利用者である障害者は年々増加している。しかしながら、これらの障害者の歯科治療については、全身を総合的に捉える必要性があり、またその設備を有する施設には限りがある。従って、近隣にある障害者歯科診療可能医療機関、神奈川県歯科医師会、重度重複障害者通所施設の3者が連携・協力体制をとり重度重複障害者に対し、包括的な支援を行った。

重度重複障害者通所施設で働くスタッフに対して、年1回の口腔ケアについての講習会を行い、口腔への関心を高め、毎月1回の口腔ケアについての相談会により実践的口腔ケアに関する教育を行う。そしてさらに、年2回の歯科医師による全体の歯科検診を行うことで、早期に歯科疾患の抽出を行い、その設備を有する施設へ紹介を行う。

6. 実施後の評価（今後の課題）：

歯科検診は13時～14時の1時間で重度重複障害者の昼食後の口腔内清掃の時間に合わせて行われた。その結果、現場職員と歯科医師会との連携の中で重度重複障害者へのより実践的な口腔内ケア方法を確立することが可能となった。

今回、重度重複障害者とその家族を取り囲む近隣にある障害者歯科診療可能医療機関、神奈川県歯科医師会、重度重複障害者通所施設の3者が連携することで、重度重複障害者の口腔疾患に対する予防および、バックアップ体制の足がかりは出来たと思われた。

しかしながら、重度重複障害者および、その家族と重度重複障害者通所施設、重度重複障害者および、その家族と神奈川県歯科医師会の連携はいまだ不十分であることが、今後の課題として挙げられる。

また、今回の歯科検診(H22.2.18)結果は、49名中治療を要するものが、4名おり、「受診のすすめ」を2月末に作成し、ご家族に配布した。その結果、3月末現在で、障害者歯科診療可能医療機関へ内2名が、受診した。新規に重度重複障害者通所施設を利用する重度重複障害者は、新年度に利用開始となるため、この包括支援システムによる口腔ケアの経時的変化や歯科検診に基づく受診率の評価については、現段階では下せない部分もあるため、継続して経過を追跡調査していく必要があると思われた。